

安定多収となる早期水稲「ひなたみのり」の施肥量

「ひなたみのり」は基肥－穂肥Nが7－3kg/10a施用で、安定多収が期待できる

背景・目的

- 令和5年度から飼料用米「ひなたみのり」が県内において普及が進む中、安定多収に向けた栽培方法について、明らかにする必要があります。
- そこで、早期水稲における「ひなたみのり」の最適な施肥量について検討しました。

成果の内容

- 生育量と精玄米重は正の相関関係にあります（図1）。
- 草丈及び茎数、SPAD値を掛け合わせた生育量は基肥窒素量7kg/10aで大きいため、基肥窒素量は7kg/10aが最適です（表1、図2）。
- 基肥窒素量7kg/10aの条件において、穂肥窒素量を3kg/10aと5kg/10aと比較すると、穂肥量の増肥による精玄米重の増加が見られないため、穂肥量は3kg/10aが適しています（表1、図3）。

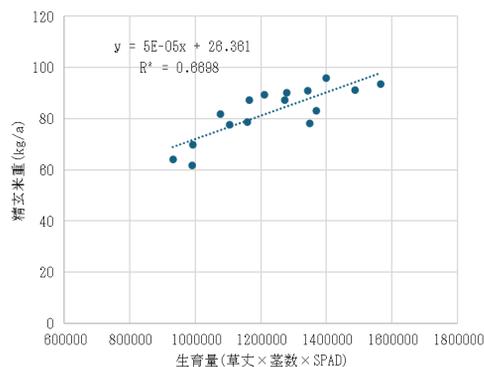


図1 生育量と精玄米重の関係

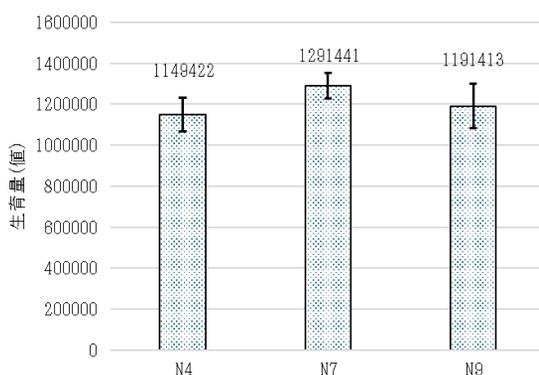


図2 基肥窒素別の生育量(草丈×茎数×SPAD)

表1 生育及び成熟期調査結果

試験年度	試験区	移植後55日			稈長 (cm)	穂数 (本/㎡)	精玄 米重 (kg/a)	穂数		登熟 歩合 (%)	玄米 千粒重 (g)
		草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	SPAD				1穂当 (粒)	㎡当 (百粒)		
2023年	N4+2	62.6	581	40.2	94.3	255	89.2	161	409	85.6	25.7
	N7+3	64.6	632	40.6	95.4	264	90.3	168	444	86.2	25.8
	N7+5	63.5	608	39.2	93.2	252	93.1	171	431	84.1	25.8
	N9+3	64.0	598	39.1	96.3	260	90.2	159	414	85.6	25.6
2024年	N4+2	58.3	491	36.4	88.1	228	71.4	154	352	82.8	24.1
	N7+3	61.9	509	37.3	89.1	243	76.5	163	396	80.9	24.2
	N7+5	61.5	540	36.8	90.6	259	77.9	150	389	81.7	24.2
	N9+3	61.0	464	36.5	88.9	240	71.8	158	380	79.4	23.9
2ヶ年平均	N4+2	60.5	536	38.3	91.2	242	80.3	158	381	84.2	24.9
	N7+3	63.2	570	39.0	92.2	253	83.4	165	420	83.6	25.0
	N7+5	62.5	574	38.0	91.9	255	85.5	161	410	82.9	25.0
	N9+3	62.5	531	37.8	92.6	250	81.0	159	397	82.5	24.8
分散分析表	試験年度(A)	**	*	**	**	*	**	n. s.	**	*	**
	基肥量(B)	*	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.
	(A)×(B)	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	*	n. s.	**	n. s.

※SPADは「マルチSPAD-502」による測定

※n=2

※分散分析表：*は5%水準、**は1%水準で有意差有り、n. s.は有意差無し

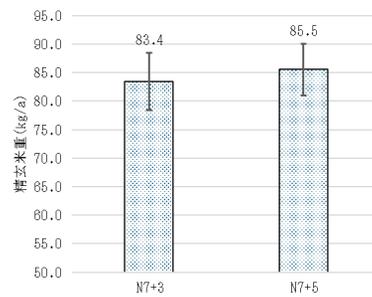


図3 穂肥量による精玄米重への影響

成果の活用方法(又は期待される効果)

- 地域別の栽培暦等の技術資料への活用が期待されます。
- 普及対象：早期水稲（中部、南那珂、児湯、東臼杵南部）

留意点

- 4月中旬移植の結果です。

関連研究成果カード：2025年度整理番号5
研究期間：2023～2024年度

関連事業名：地域の水田農業を支える稲作技術の開発（県単）